

# 協和発酵キリン株式会社

## 2008年度決算

2009年4月28日

代表取締役社長

松田 譲

協和発酵キリン株式会社

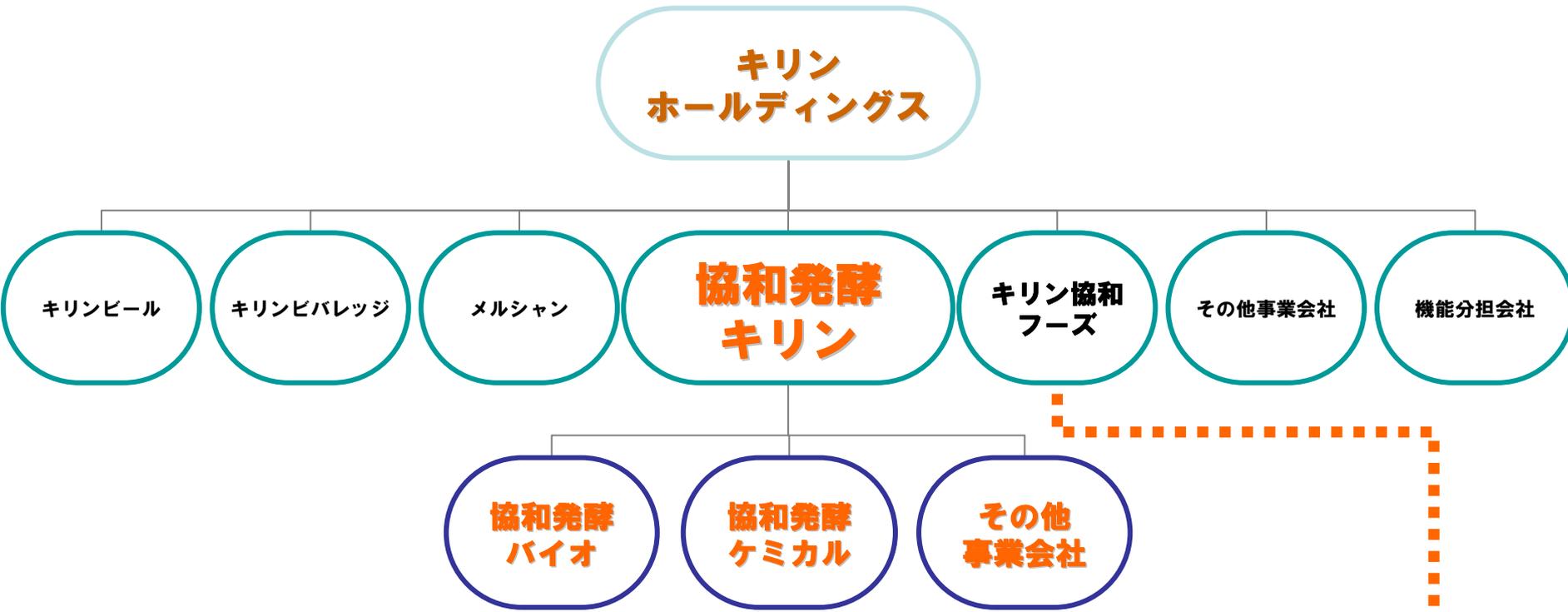
将来の業績見込みおよび研究開発の状況等については、現時点で入手した情報に基づき判断されたものです。  
従って、実際の業績は経済情勢や為替動向等のさまざまな要因によって変動する可能性があります。

## 目次

---

	Page
>> 事業構造図	2
>> 決算概要	4
>> パイプライン	14
>> Appendix	22

---



2009年4月1日	キリン協和フーズ発足	
	キリンホールディングス持分	65%
	当社持分	35%
2011年1月1日 (予定)	キリンホールディングスの100%子会社	

2007/10

2008/4

2008/10

2009/4

2009/10

2010/4

2008年

2009年

2010年

抗体製造拠点の統合  
(高崎)

営業拠点の統合

ITの統合

本社機能の統合

海外開発拠点の統合

国内研究拠点の統合

人事制度の一本化

バイオケミカル事業の  
分社



## 決算概要

---

億円	売上高	営業利益	経常利益	純利益
2009年3月	4,601	453	464	117
前年同期比	+680 (+17.4%)	+59 (+15.2%)	+84 (+22.2%)	▲117 (▲50.0%)
2008年3月	3,921	393	379	234

## 概要

- 医薬                    キリンファーマ社との統合、Amgen社からの契約一時金収入、ネスプ／エスポーのシェアアップ、アレロック・パタノールの伸長、レグバラ・コバシルの新発売などもあり増収増益
- バイオケミカル      医薬・工業用原料、ヘルスケア製品が伸長したが、為替影響やビタミン類の市況悪化もあり増収減益
- 化学品                上期は原燃料価格高騰を背景に価格改定を実施し増収となったが、下期以降の原燃料価格急落、景気後退に伴う事業環境悪化等により大幅減収減益
- 食品                    原材料価格高騰の影響などを受け減収減益
- 特別損益              食品事業の譲渡に伴う特別利益などの一方、投資有価証券評価損、減損損失、統合関連費用などが発生

億円	2008年3月	2009年3月	前年同期比
売上高	1,383	2,104	+720
営業利益	199	348	+148
研究開発費	281	426	+144

【前同比の増減要因】

- 売上高、営業利益プラス要因は、キリンファーマ社との統合、KW-0761\*のAmgen社への導出に伴う契約一時金収入など
- 売上高、営業利益マイナス要因は、薬価改定、デュロテップの終売など

\*KW-0761は当社が開発した強活性抗体作製技術(POTELLIGENT®)を適用した抗体医薬開発品です

億円	両社単純合算 07年4月-08年3月	2009年3月	前年同期比
売上高	2,045	2,104	+59
営業利益	281	434	+152
研究開発費	476	426	▲50

※09年3月期の営業利益は統合に関するのれん償却前

【増収増益を達成】

- 売上高、営業利益プラス要因は、KW-0761のAmgen社への導出に伴う契約一時金収入、コバシル(08年4月)・レグパラ(08年1月)の発売、パタノールの伸長など
- 売上高、営業利益マイナス要因は、薬価改定、デュロテップの終売など
- ネスプ／エスポーは前年比でシェアアップを果たし増収となり、薬価改定影響を吸収
- 研究開発費は前年両社単純合算比で減少

# ● 主力医薬品の売上(前年度単純合算との比較)

億円	両社単純合算 2008/3	2009/3	参考：通期予想	
			Q3時点	期初
ネスブ/エスポー	415	437	430	468
コニール	254	231	229	228
アレロック	233	250	231	233
パタノール	43	66	49	50
グラン/ノイアップ(*)	186	176	183	182
デパケン	105	107	107	103
デュロテップ	139	—	—	—
コバシル	—	50	50	43
レグバラ	5	46	42	69
輸出・技術収入(*)	189	291	297	295

(\*)2008/3のグラン/ノイアップ、輸出・技術収入は両社単純合算値

億円	2007年3月	2008年3月	2009年3月	前年同期比
売上高	671	868	884	+16
営業利益	41	96	83	▲13
為替	¥117/\$ ¥150/€	¥114/\$ ¥162/€	¥101/\$ ¥143/€	▲¥13/\$ ▲¥19/€

- 医薬・工業用原料は、海外の需要増を背景に数量ベースでは輸液用アミノ酸等が堅調に推移したが、為替影響を受ける
- ヘルスケア製品は、国内通販や海外での健康食品用アミノ酸の好調もあり増収
- 第一ファインケミカル(株)のビタミン類は、競争激化により減収

億円	売上高	営業利益	経常利益	純利益	配当金
2009年4-12月	3,000	270	275	130	¥15
対前年同期	(▲17.2%)	(▲36.8%)	(▲36.4%)	(+24.0%)	
2008年4-12月	3,622	426	432	104	—
08年4月-09年3月	4,601	453	464	117	¥20

【決算期変更に伴い4-12月の9ヶ月決算。食品事業は持分法損益で取込む】

- 決算期日を12月末日に変更
- 医薬主力製品は伸長を見込むが、為替影響や経費増加、08年の特殊要因（Amgen社からの契約一時金収入、導入経費）がなくなる
- バイオケミカルは医薬・工業用原料等は好調を維持すると見込むが、為替影響、ビタミン類の価格競争激化などを織り込む
- 化学品の事業環境は徐々に回復に向うと予想するが、先行きは不透明（予想ナフサ価格 ¥35,000/kl）
- 食品は持分法により取込み（09年4月キリン協和フーズ設立：当社持分35%）

億円	2008年 4月-12月	特殊 要因	2008年 調整後	2009年 4月-12月	調整後 前年比
売上高	1,613	Amgen一時金	1,515	1,530	+15
営業利益	296	Amgen一時金 導入経費	228	215	▲13
研究開発費	325	導入経費	306	323	+17

※特殊要因

・Amgen一時金：KW-0761導出に伴う契約一時金収入

・導入経費：開発品導入や共同開発権、共同販売権の獲得に要した一時的な費用

4-12月	2008年	2009年
ドル・円	¥103/\$	¥90/\$

- 売上高は、国内主力製品の増収を見込むが、輸出・技術収入の為替影響マイナスにより、約15億円の増収にとどまる
- 研究開発費は、KW-0761、KW-6002や導入品のステージアップにより調整後前年比で増加
- 研究開発費以外の経費は、新製品発売に向けた先行投資などで増加

# ● 2009年度通期予想（主力医薬品の売上）

億円	2008/4-12	2009/4-12	増減率
ネスブ/エスポー	344	351	2% ↑
コニール	181	173	4% ↓
アレロック	156	164	5% ↑
パタノール	22	32	45% ↑
グラン/ノイアツプ	143	134	6% ↓
デパケン	83	85	2% ↑
コバシル	40	36	10% ↓
レグバラ	33	46	39% ↑
輸出・技術収入(*)	165	147	11% ↓

\*2008年は荷送りベース、2009年は実消化ベース

\*2008/4-12の輸出・技術収入はAmgen社からの契約一時金収入98億を控除している

		億円	2008年 4月-12月	2009年 4月-12月	前年同期比
バイオケミカル	売上高		675	700	+25
	営業利益		74	38	▲36
化学品	売上高		773	500	▲273
	営業利益		35	10	▲25
為替	/＄		¥103/＄	¥90/＄	▲¥13/＄
	/€		¥151/€	¥120/€	▲¥31/€
ナフサ	/kl		約¥70,000/kl	¥35,000/kl	約▲¥35,000/kl

**バイオケミカル：アミノ酸ビジネスは好調も為替影響により減益**

- 決算期変更に伴い、海外子会社は1-12月予想を連結
- 輸液用を中心とした医薬・工業用原料は現地通貨ベースでは伸長
- 為替影響が影響し減益（特に08年上期¥106/＄, ¥163/€に対し、09年上期¥90/＄, ¥120/€）

**化学品：事業環境は多少好転すると見込むも本格回復には至らず**

- ナフサ価格は09/1-3月期の¥26,500/kl程度から回復すると見込むが、景気回復の遅れの影響で数量減となり減収減益を見込む

# ● パイプライン (2009年4月現在)

(Ph II以上)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or 導入	備考
		日本	海外				
がん 血液	KRN321 ネスブ	申請中 2008/11		★がん化学療法による 貧血	注射	Kirin- Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として07年7月より発売中
	AMG531	Ph III		血小板減少症 (特発性血小板減少性紫斑病)	注射	Kirin- Amgen	血小板増殖刺激因子製剤 (契約に基づき開発はアムジェン・デベロップメント(株)が実施)
	KW-2246	Ph III		がん疼痛	舌下錠	Orexo	
	KRN125	Ph II		白血球減少症	注射	Kirin- Amgen	持続型G-CSF製剤
	AGS-003		米国・カナダ Ph II	腎細胞がん	注射	Argos	樹状細胞医薬品
	AGS-004		カナダ Ph II	HIV	注射	Argos	樹状細胞医薬品
腎臓	PB94 フォスブロックレナジェル		中国申請中 2008/6	高リン血症	経口	中外 製薬	本邦:発売中
	KRN321 ネスブ	申請中 2008/12	中国 Ph II	★腎性貧血 (透析施行前) ★腎性貧血 (透析施行中)	注射	Kirin- Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として07年7月より発売中
免疫 アレルギー	KW-4679 アレロクク		中国申請中 2008/7	アレルギー	経口	自社	本邦:発売中
	Z-206 アサコール	Ph III		炎症性腸疾患 (クローン病)	経口腸 溶製剤	ゼリア 新薬	ゼリア新薬と共同開発

2008年10月30日より進捗した開発品目(地域・ステージ・申請・承認・発売 等)

★ 適応拡大

# ● パイプライン (2009年4月現在)

(Ph II以上)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or 導入	備考
		日本	海外				
中枢 神経系	KW-6002	Ph II b	米国申請中 2007/4	パーキンソン病	経口	自社	★単剤投与(Mono-Therapy)での臨床試験は Ph II a (日本)
	KW-6500	Ph II		パーキンソン病	注射	Britannia Pharma	
循環器	KW-3049 コニール		中国承認 2008/9	★狭心症	経口	自社	★中国で高血圧治療剤として04年12月より発売中 (本邦:発売中)
その他	KW-7158	Ph II a		腸疾患 (過敏性腸症候群)	経口	自社	過活動膀胱/尿失禁での開発は2006年9月に中止

2008年10月30日より進捗した開発品目(地域・ステージ・申請・承認・発売 等)

★ 適応拡大

# ● パイプライン (2009年4月現在)

(Ph I)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社 or 導入	備考
		日本	海外				
がん 血液	KRN654	Ph I/II		血小板増多症	経口	Shire	
	KW-0761	Ph I		悪性腫瘍 (血液がん)	注射	自社	ヒト化抗体 (がん領域以外のすべての疾患について日本・中国・韓国・台湾を除く全世界における独占的開発/販売権を米国Amgen社へ08年3月に導出)
	KW-2449		米国 Ph I/IIa	悪性腫瘍	経口	自社	
	KW-2478		欧州Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	
	ARQ197	Ph I		悪性腫瘍	経口	ArQule	
	KRN330		米国Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	完全ヒト抗体
	BIW-8962		米国Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	ヒト化抗体
免疫 アレルギー	NU206		豪州Ph I	炎症性腸疾患	注射	ARCA biopharma (旧Nuvelo)	
	ASKP1240		米国Ph I	臓器移植時の 拒絶反応	注射	自社	完全ヒト抗体 アステラス製薬と共同開発
その他	KW-3357	Ph I		血液凝固 (汎発性血管内凝固症候群)	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンピン製剤
	KRN23		米国Ph I	低リン血症性くる病	注射	自社	完全ヒト抗体

【上記以外のパイプライン】

フィリピンにおいてフィルグラスチム(G-CSF製剤)の承認申請を行っています。

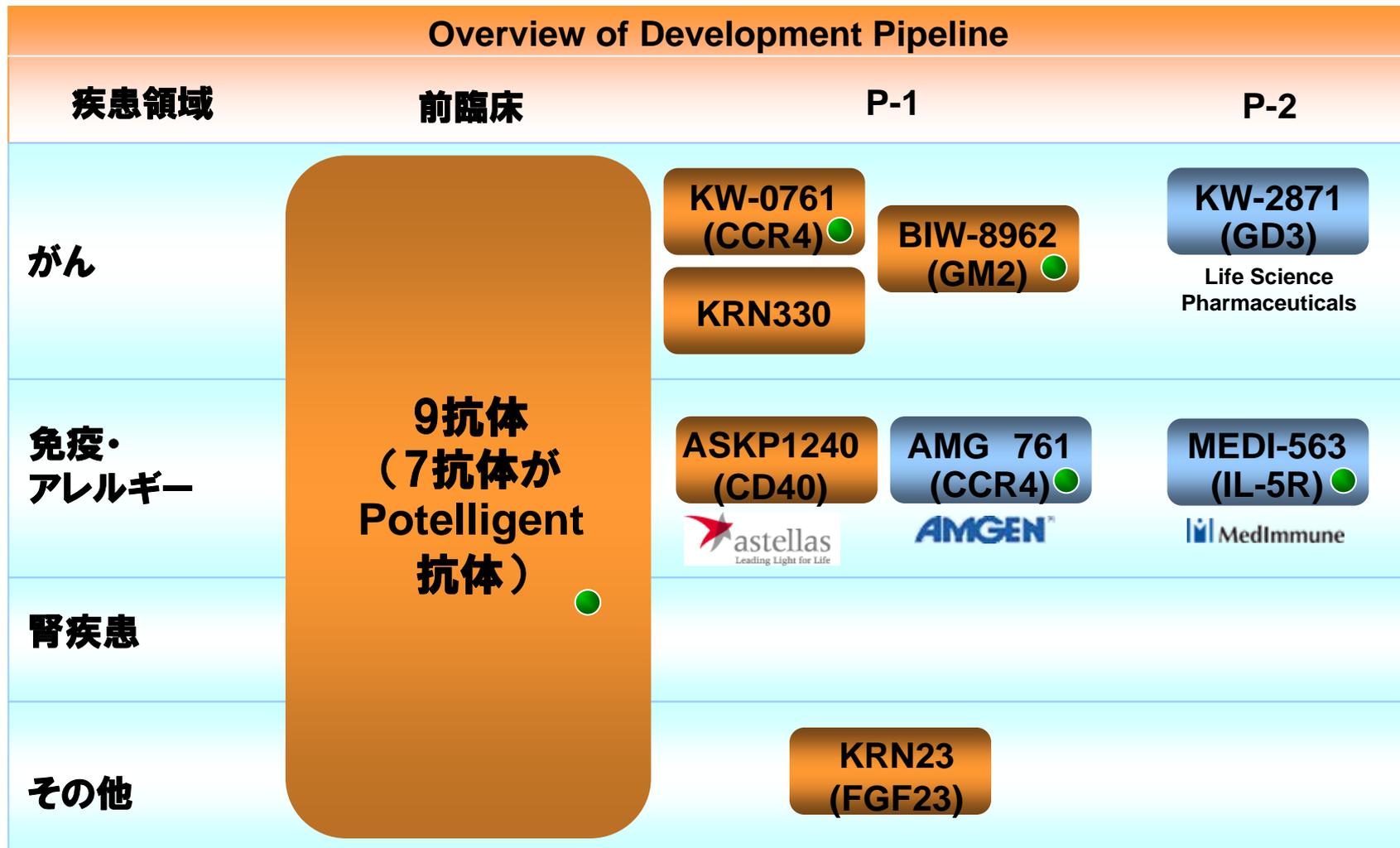
韓国、台湾、タイにおいてネスブ(持続型赤血球造血刺激因子製剤)の承認申請を行っています。

香港、台湾においてレグバラ(二次性副甲状腺機能亢進症治療剤)の承認申請を行っています。

韓国においてレグバラの臨床薬理試験を行っています。

2008年10月30日より進捗した開発品目(地域・ステージ・申請・承認・発売等)

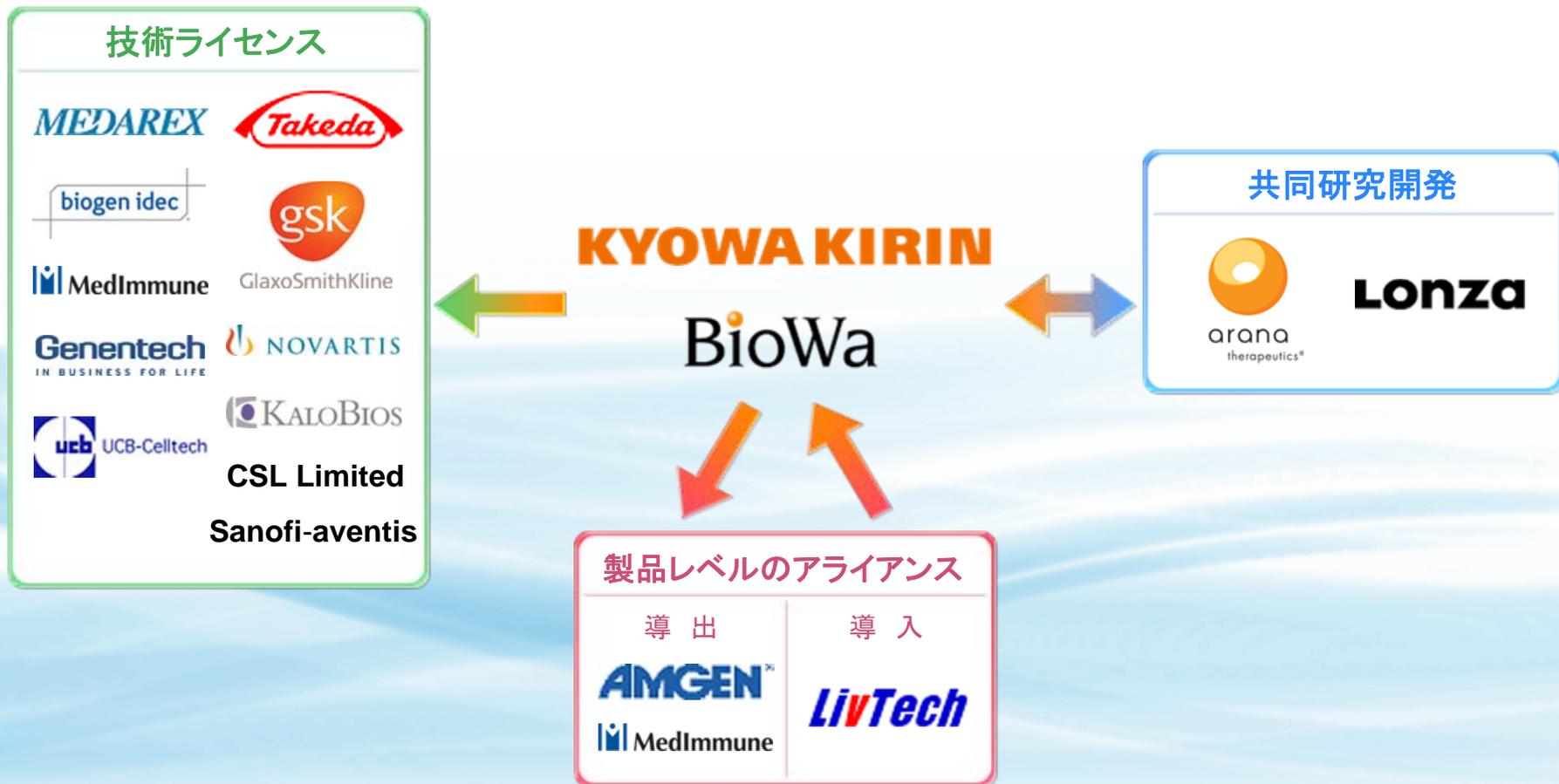
★ 適応拡大



● : POTELLIGENT®Technology

# ●POTELLIGENT®技術関連アライアンス (2009年4月現在)

**KYOWA KIRIN**



名称	相手先	前臨床	Phase			備考
			I	II	III	
CEP-701	Cephalon					抗悪性腫瘍剤 (急性骨髄性白血病)
KW-3902	Merck (NovaCardia)					急性心不全
KW-2871 (低フコース抗体)	Life Science					抗悪性腫瘍剤 (悪性黒色腫)
BIW-8405 (POTELLIGENT抗体)	AstraZeneca (MedImmune)					抗アレルギー剤
KRN951 (AV-951)	AVEO					抗悪性腫瘍剤
LY2523355 (Eg5阻害剤)	Eli Lilly					抗悪性腫瘍剤
KW-0761 (POTELLIGENT抗体)	Amgen					抗アレルギー剤 (当社Ph I 実施)
Debio0719	Debio					LPA受容体阻害剤 (がん骨転移抑制)
KRN7000	レグイミューン					免疫抑制剤

名称	相手先	前臨床	Phase			備考
			I	II	III	
アサコール	ゼリア新薬工業					炎症性腸疾患治療剤（クローン病） 潰瘍性大腸炎は申請中
KW-6500	Britannia					抗パーキンソン剤 （注射）
AGS-003	Argos					免疫賦活性がん治療細胞医薬品 （腎細胞がん）
AGS-004	Argos					免疫賦活性HIV治療細胞医薬品
ARQ197	ArQule					抗悪性腫瘍剤
KRN654	Shire					血小板増多症治療剤
NU206	ARCA biopharma (IBNuvelo)					炎症性腸疾患治療剤
ALN-RSV01	Anylam					RSV感染症治療剤
ART104	arana					抗悪性腫瘍剤 （大腸がん）
LIV-1205	リブテック					抗悪性腫瘍剤
HFT-290	久光製薬		申請中			経皮吸収型持続性がん疼痛治療剤

- 2009年7月下旬（予定）      第1四半期決算発表
- 2009年10月下旬（予定）      第2四半期決算発表、説明会
- 2010年1月下旬（予定）      2009年度決算発表、説明会  
2010～2012年中期経営計画発表、説明会

## Appendix

---

注記のない場合は単体ベースの影響

2008年3月	売上高	2009年3月
1,383億円	+720億円	2,104億円
増収要因	キリンファーマ社新規連結 Amgen社からの契約一時金 コバシル新発売、パタノール等伸長	
減収要因	薬価改定影響 デュロテップ終売	
	営業利益	
199億円	+148億円	348億円
増益要因	キリンファーマ社新規連結 Amgen社からの契約一時金 コバシル新発売、パタノール等伸長	
減益要因	薬価改定影響	統合に関するのれん86.2億円

注記のない場合は単体ベースの影響

2008年3月	売上高	2009年3月
868億円	+16億円	884億円
増収要因	医薬・工業用原料バルク数量増 ヘルスケア製品伸長	
減収要因	為替影響	
	営業利益	
96億円	▲13億円	83億円
増益要因	医薬・工業用原料バルク数量増 ヘルスケア製品伸長	
減益要因	為替影響	統合に関するのれん6.2億円

億円	2008年3月	2009年3月	前年同期比
売上高	1,080	892	▲188
営業利益	71	▲0	▲72

【下期以降の原燃料価格急落、需要急減に伴い大幅減収減益に】

- 上期 原料価格高騰に応じた製品価格の改定を実施  
電子材料向け高純度溶剤や冷凍機向け潤滑油原料などが堅調に推移
- 下期 世界的な景気後退に伴う需要急減、原燃料価格急落に伴う製品市況の大幅悪化、在庫影響により若干の営業損失を計上（のれん償却前では営業黒字）

ナフサ価格動向（/KL）

参考：四半期推移

2008/3実績	2009/3見込み
¥61,400	¥58,800

2008/4-6	2008/7-9	2008/10-12	2009/1-3見込み
¥70,900/kl	¥85,800/kl	¥52,000/kl	¥26,500/kl

注記のない場合は単体ベースの影響

2008年3月	売上高	2009年3月
1,080億円	▲188億円	892億円
増収要因	—	
減収要因	景気後退による需要減 製品市況の悪化	
	営業利益	
71億円	▲72億円	▲0億円
増益要因	原燃料価格下落によるコスト改善	
減益要因	景気後退による需要減 製品市況の悪化 在庫影響	統合に関するのれん0.4億円



注記のない場合は単体ベースの影響

2008年3月	売上高	2009年3月
433億円	▲8億円	424億円
増収要因	うま味調味料数量増	
減収要因	天然調味料数量減 製菓・製パン資材数量減	
	営業利益	
15億円	▲4億円	10億円
増益要因	うま味調味料数量増 製菓・製パン資材の販売製品見直し	
減益要因	原価アップ	統合に関するのれん2.9億円

# **KYOWA KIRIN**

**本資料のお問合せ先**

**協和発酵キリン株式会社**

**コーポレートコミュニケーション部 03-3282-0009**